

科目名	Advanced Studies in Intercultural Communication	授業形態	講義
日本語科目名	異文化間コミュニケーション特論	開講学期	後期
対象学年	1年次	単位数	2単位
代表教員	原 和也	ナンバリング	COM501
担当教員	原 和也		
授業概要			
全体内容	<p>異なった文化背景を持つ人々とのコミュニケーションにおいては、言語的機能の問題に加えて、文化を背負った様々な問題がある。異文化間コミュニケーション学研究の主な目的は、これらの諸問題を認識し、文化とコミュニケーションの視点から過去を調べ、現在を分析し、未来を予測することにある。個人の世界観、価値観、思考様式といった内面的活動と、それらが外面化した異文化間でのコミュニケーション活動について研究をするためには、一般コミュニケーション論の代表的な研究領域、文化の概念、文化とコミュニケーションの関係、さらに研究の理論的背景と調査方法について理解を深めておくことが前提条件となる。本科目では、異文化間コミュニケーションに関する様々な現象を、認知面・情意面・行動面から調査、分析、説明できる能力を身に付け、理論の特徴及び構築方法を学ぶ。授業形式は、担当教員の講義、履修者の課題研究発表、そして、全員による討論で構成される。</p>		
到達目標	<p>(1) 異文化間コミュニケーション論の基礎概念及び主要理論についての理解を深める。</p> <p>(2) 個々人の興味に基づいて、先行研究をレビューし、適切な調査方法を見出すことができるようになる。</p> <p>(3) 修士論文の作成に必要な基礎知識、文献収集能力、研究方法を見出す。</p>		
授業の位置づけ	専門科目（グローバルコミュニケーション研究領域）、選択科目		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ディプロマ・ポリシーのうち、「知識と理解（DP1）」「知識と理解の活用（DP2）」「判断力（DP3）」に関連している。		
履修上の注意、履修要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部にて異文化コミュニケーション学の科目を履修していることが望ましい。</li> <li>・この科目の主たる使用言語は英語です。授業中の使用言語を英語とし、提出課題やレポート試験も特段の指示がない限り英語で解答を求めます。</li> </ul>		
成績評価の方法			
評価方法	<p>(1) ディスカッション・リーダー：40 %</p> <p>(2) 学期末レポート（モデル構築型論文）：60 %</p>		
評価基準	<p>(1) ハンドアウトの内容、デリバリー</p> <p>(2) モデル構築型論文、批評の質</p>		

試験・課題等に対するフィードバック方法				
個別にコメントを返却する。				
テキスト				
リーディング・パケットを使用する				
参考文献				
1. 石井敏・久米昭元・遠山淳（編）（2001）. 『異文化コミュニケーションの理論—新しいパラダイムを求めて—』. 有斐閣.				
2. 石井敏・久米昭元（編）（2013）. 『異文化コミュニケーション事典』. 春風社.				
3. Kim, M-S. (2002). <u>Non-Western perspectives on human communication: Implications for theory and practice</u> . Thousand Oaks, CA: Sage.				
その他				
連絡先・オフィスアワー		kaz-hara@juntendo.ac.jp, 火-4		
担当教員の実務経験		N/A		
備考		なし		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	原 和也	オリエンテーション： 1. シラバスの確認 2. 研究の視点	講義	【予習】 シラバスを読み、これまで習得してきた異文化コミュニケーション学の知識を再確認する（120分）。 【復習】 配布資料をもとに、研究したい分野を決める（120分）。
2	原 和也	コミュニケーションの本質	講義	【予習】 指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する（120分）。 【復習】 各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える（120分）。
3	原 和也	文化の概念化、コミュニケーションとの相関関係	講義	【予習】 指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する

				(120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
4	原 和也	コミュニケーション・モデルの構築	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
5	原 和也	コミュニケーション研究の視点・メタ理論	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する。(120 分) 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
6	原 和也	個人内レベルの自己概念と比較	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
7	原 和也	価値観・世界観, コンテキスト	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する

				(120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
8	原 和也	カルチャー・ショックのメカニズムと主要理論	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
9	原 和也	ステレオタイプと偏見	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
10	原 和也	文化と認知の発達の視点	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
11	原 和也	異文化コミュニケーション能力の概念化	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する

				(120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
12	原 和也	異文化間トレーニング	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、研究と実践の相関関係について、理解を深める (120 分)。
13	原 和也	理論構築及び評価の視点	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
14	原 和也	主要理論のレビュー	講義	【予習】指定された文献を読み、論点を整理する。発表者はハンドアウトを作成する (120 分)。 【復習】各種資料をもとに、重要事項を復習し、今後の研究への応用について考える (120 分)。
15	原 和也	コミュニケーション・モデル 発表と批評	講義	【予習】構築したモデル発表の準備を行う (120 分)。 【復習】他者からの批評を参考に、今後モデルをどのように実証するかについて考え

				る (120 分)。
--	--	--	--	------------

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合，その内容を明記（PBL，反転授業，グループワーク，討議，発表等）